

部品 用品 整備

最新動向

テクノレーダー

16

アートフィルム

マイカーや営業車まで様々なニーズに対応する多目的フィルム



このクルマはリヤガラスの中央にアートフィルムを貼付しているが、リボンのイラストを通じて室内のセンターコンソールがぼんやり見えるのが分かる。



有名人や著名なキャラクターは「著作権」「肖像権」に関する慎重な対応が求められるだろう。



クルマのガラスのように微妙な湾曲があってもスムーズに貼付することができる。施工は特殊な糊を使用して室内側から貼付する。

パソコンで自在にオリジナルデザイン

クルマの室内のプライバシーを守るのに有効だとして、90年代に入り「スモークフィルム」の需要が伸びたのは記憶に新しい。近年は新型車に「プライバシーガラス」を設定する車種が増加しており、街中を走るクルマを見てもそれらを装着する比率の高さがうかがえる。

今回、紹介する「アートフィルム」は、車内の様子を見られたくないというニーズに対応するだけでなく、フィルムにイラストや写真をプリントできるのが特徴だ。

このフィルムは素材の性質上、光を通さないのだが、それだと視界が完全に妨げられてしまうので、表面に直径2mmほどの穴を無数に空けて視界を確保すると同時に、写真やイラストを印刷する面積も確保している。

フィルムにプリントするまでの工程は、すべてパソコンとインクジェットプリンタ（業務用）で行う。ユーザーが持込むデジタルカメラの画像やイラストなどの材料をパソコンに取り込んでデザイン専用のソフトでイメージ化し、それをプリンタで印刷する。

様々なニーズに対応できるけれど…

このフィルムの販売元によると、一般ユーザーがカスタマイズの一環として利用するだけでなく、企業や商店との取引も少なくないそうだ（写真参照）。またビルや店舗のガラスにも貼付でき、様々なニーズに対応できるといえるだろう。

ただ、様々な利用形態がある以上、気を付けるべき点もある。それは「著作権」や「肖像権」の問題だ。たとえば、著名なタレントや人気キャラクターの写真（イラスト）を無断で企業などの宣伝に利用すると、これらを侵害することになる。なお一般ユーザーの場合は、個人の責任において利用することを明確にして注文に応じるそうだ。

なお、アートフィルムのユーザー価格はクルマのガラス用で2万5,000～3万円となっている。販売元ではアートフィルムの取扱い代理店を募集している。加盟金は35万円で、加盟後のロイヤリティや保証金の支払いは一切ない。導入が必要な設備はパソコンのみ。加盟店は顧客から預かった素材をデジタル化して販売元へ送付する。印刷は販売元で行うため、在庫リスクが生じない仕組みになっている。